

地域特性 3 農業と自然

【葉たばこ耕作と秦野の里山の維持】

ア 日本三大葉たばこ産地

- ・ 50 年ほど前まで、日本三大葉たばこ産地
ピークだった昭和 35 年ごろには、1,500 軒ほどの葉たばこ農家
- ・ 昭和 59 年、300 年余の歴史に幕を下ろし、現在、「たばこ祭り」のみ名残を残す。

イ 里山の活用と自然環境

- ・ 葉たばこ栽培に欠かせないものとして、里山のクヌギやコナラの落葉を苗床の肥料に、伐採木材はたばこの葉の乾燥燃料（薪）に活用し、雑木林は管理が行き届いていた。クヌギやコナラは 10 年～15 年間隔で伐採、萌芽更新されていた。

【現在の農業者の抱える課題】

ア 鳥獣被害対策

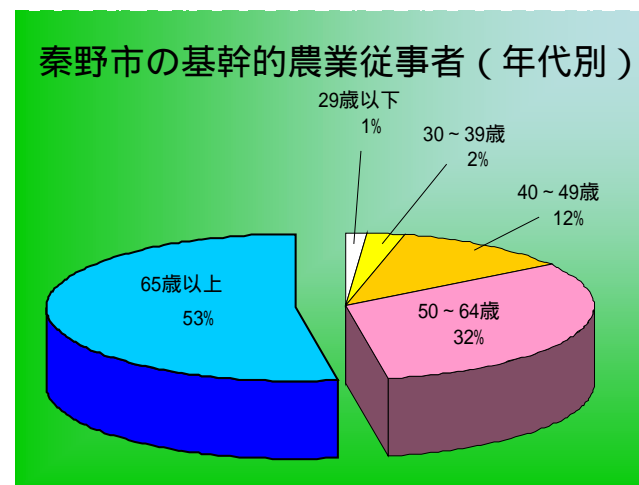
- ・ 森林の荒廃により、シカ、イノシシなどが里山周辺の農地に生息区域を拡大し、農産物の鳥獣被害が頻繁に発生。平成 17 年推定被害金額約 53,000 千円（J A はだの調べ）
- ・ 市内 24 km に及ぶ広域獣害防止柵を設置
河川・林道など開口部からの出入りは防げず

イ ヤマビル対策

- ・ シカ、イノシシに寄生したヤマビルが里山で繁殖し、農作業の従事者が吸血被害を受けており、被害区域は山麓の住宅地にまで拡大。
- ・ 営農意欲の減退につながるため、早急な駆除対策が望まれるが、水源への影響懸念で、薬剤散布はできない。

ウ 農地の荒廃化と後継者の育成

- ・ 農振・農用地（市内の農業振興地域内の農用地区域）面積、約 750ha 中 1 割（76ha）が遊休荒廃化
- ・ 農業従事者の約 53% が 65 歳以上であり、今後、さらに減少する（平成 12 年農業センサス）
農家数 1,699 軒（専業：161・兼業：1,538）
耕地面積：959ha、農業就業人口：2,350 人
- ・ 都市住民、定年帰農者など、農家以外の市民を加えた、荒廃農地解消対策や、新規営農者の確保・育成対策



地域戦略 [基本方針]

目標と基本方針

「里地里山の保全再生による地域社会の発展」

～葉たばこ栽培が盛んだった頃の里地里山を、市民の協働で保全再生～

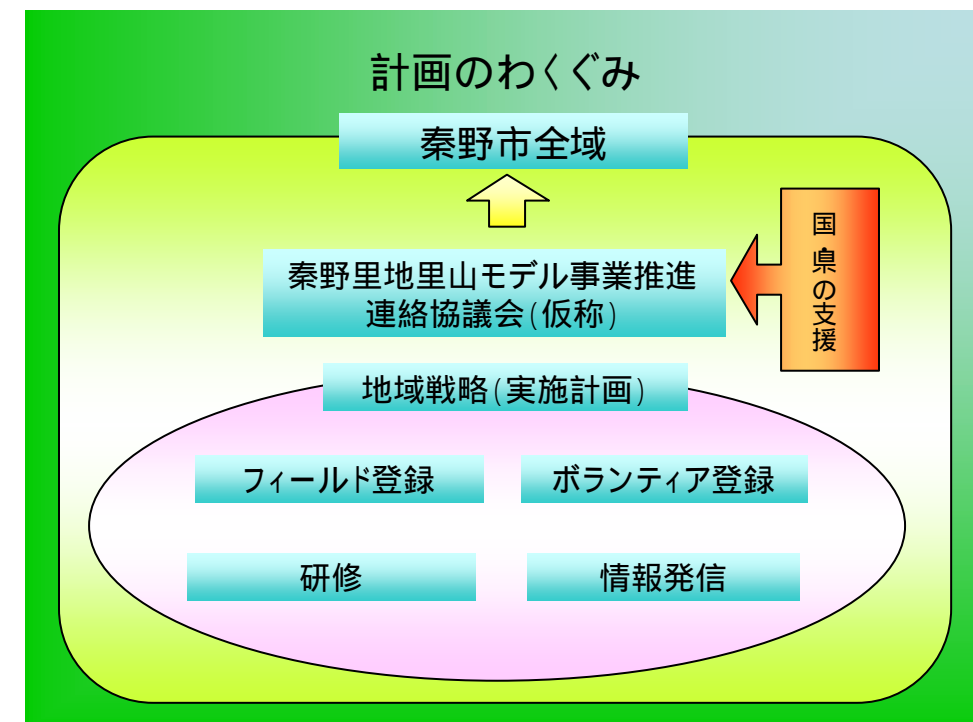
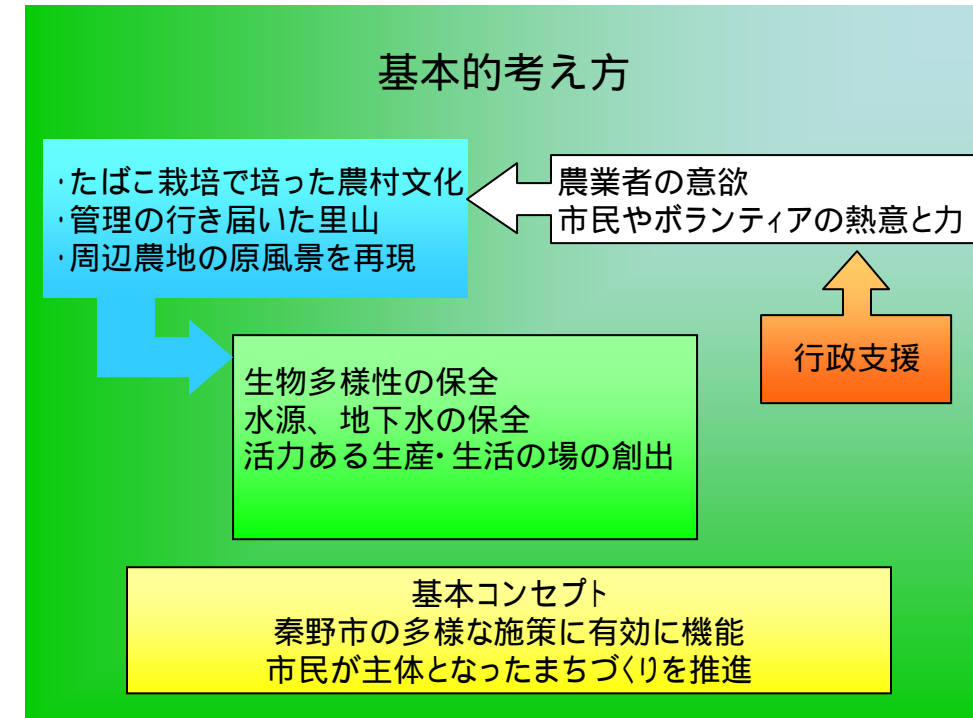
農村文化の象徴であった管理された里山と周辺の農地の原風景、すなわち、秦野市で葉たばこ栽培が盛んだった頃（昭和30年代半ば）の里地里山の風景を、農業者の意欲と、住民や都市住民の熱意・力を借りて、保全再生することにより

生物多様性の保全
 水源、地下水の保全
 活力ある生産・生活の場の創出（荒廃農地・山林の解消、鳥獣被害削減など）を実現します。

秦野市全体としては、里地里山保全活動をしくみとして定着させるため、既に行われている地区・集落ごとの取組みや保全活動団体の取組みを生かしながら、里地里山保全を行う「人」と「場所」を増やし、結びつけるための体制を整備します。

具体的には、以下のような事業を実施します。

- ・ボランティア制度（研修、登録）
- ・フィールドリーダー（研修、登録）
- ・活動フィールド登録制度
- ・情報発信
- ・荒廃農地の解消と活用
- ・バイオマス（生ゴミ堆肥化、活用）
- ・水源の保全
- ・里地里山保全管理手法の検討
- ・谷戸の保全（生き物の里の指定）



地域戦略 [実施と点検、フォローアップ]

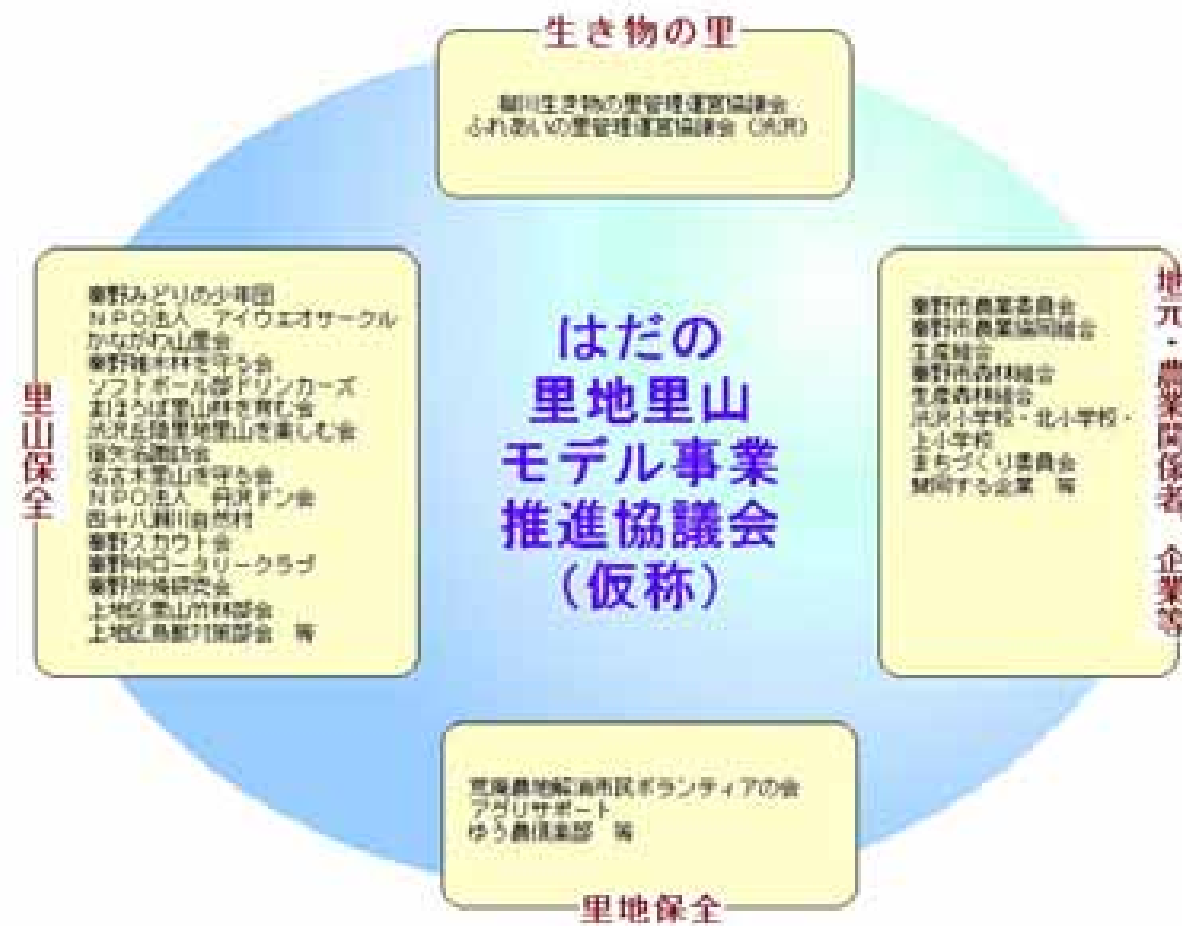
地域戦略の実施

地域戦略の実施は、「多様な関係者による協働、地元との社会的合意形成」を基本的な原則として進めます。

地域戦略に盛り込まれた各々の事業について、農業者及び土地所有者、里地里山保全活動団体、住民、都市住民、農業協同組合及び森林組合等の事業者団体、さらに、環境、農業、林業、都市緑地等に関係する省庁、県、市が連携して取り組みます。

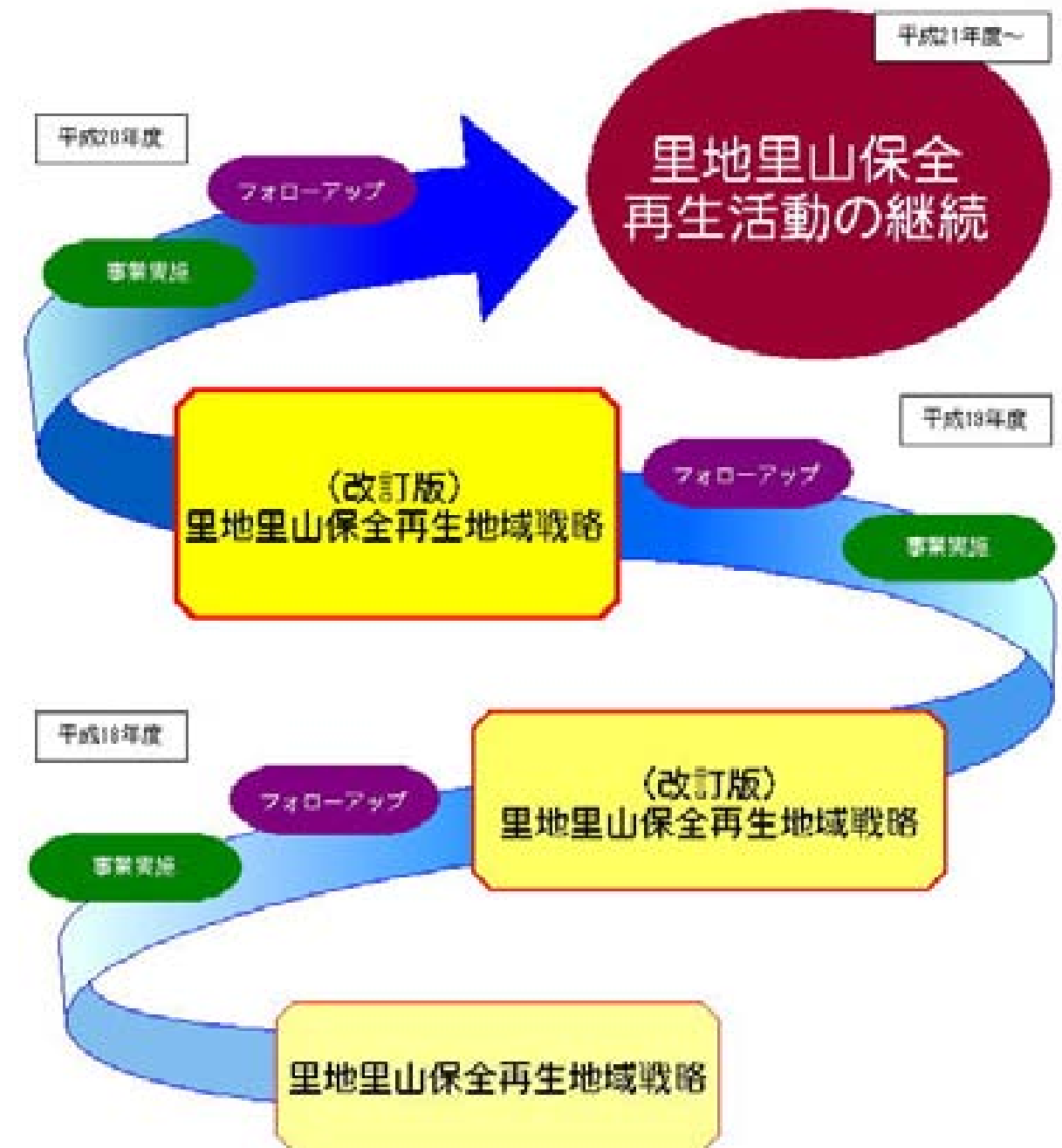
また、里地里山に手を加えるに当たっては、土地所有者や農業者、近隣の住民など、地元の人々と話し合い、社会的な合意を形成して取り組んでいくこととします。

ボランティア活動の活性化のため、里地里山保全活動団体等で構成する推進協議会を設立します。秦野里地里山モデル事業推進協議会（仮称）では、行政や関係者に対する意見発表や提案の場を設け、地元との融和策を探るとともに、団体相互の意見交換を進めます。



点検とフォローアップ

地域戦略の実施状況を点検し、課題の解決に向けて検討するため、少なくとも年1回、里地里山保全再生モデル事業懇談会を開催します。実施状況によっては、地域戦略の見直し、改正も行います。



地域戦略 [登録・研修・情報発信]

目的

里地里山保全再生モデル事業を大きく3つのわくぐみで整理し、支援体制を整えます。すでに行われている地区・集落ごとの取り組みや、保全活動団体等の取り組みをいかし、さらに活性化させ、新しい動きをつくるための試行をモデル事業として計画しました。個々の試行事業等も、この試行事業のわくぐみを活用し、ボランティアの参加や活動への取り組みを行います。

登録制度

はだの里地里山登録制度は、里地里山の保全活動に関わる「人」と「場所」のネットワークづくりのしくみです。里地里山の保全活動には、保全活動団体をはじめ、地域団体、農林業者、ボランティアなど多くの人や主体が関わります。これらの人や主体が参加しやすく、協力しやすくするためのしくみとして、「ボランティア登録」「フィールドリーダー登録」があります。また、はだの里地里山では多くの保全再生活動が行われています。そして、それ以上に、保全再生活動が必要な里地里山もあります。そこで、現在取り組まれている保全再生活動の地域と、これから保全再生が必要な地域を「フィールドリスト」としてまとめるとともに、地権者が保全再生を手伝ってほしい、行ってほしい、あるいは、研修活動等としての使用を許可できる場所を募集し、登録して、「人」と「場所」を結びつけるためのしくみとして、「フィールド登録」があります。

ボランティア登録

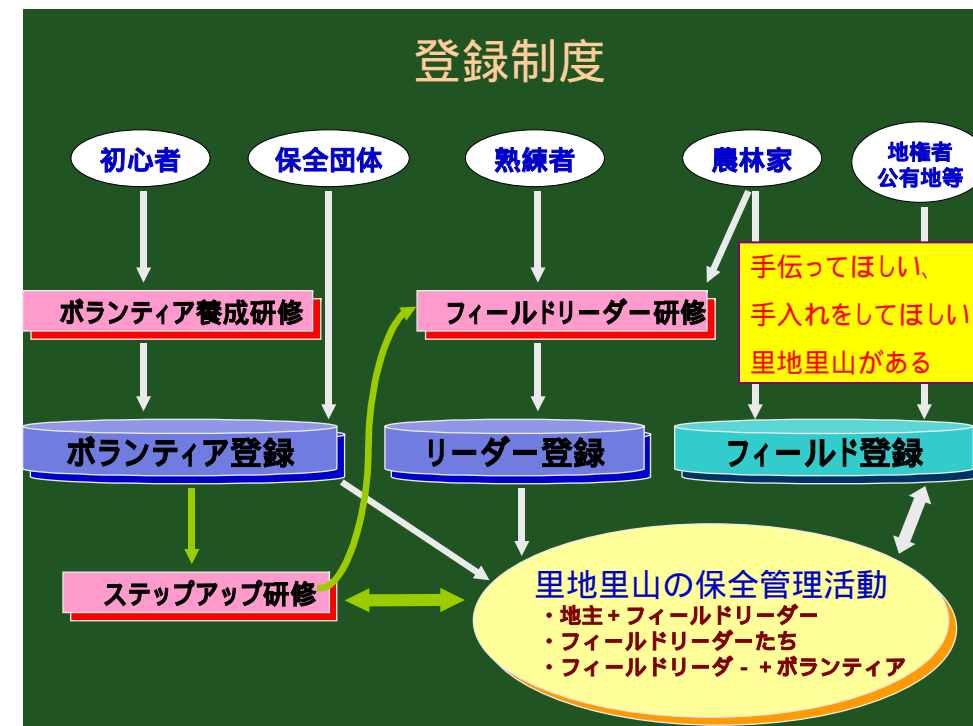
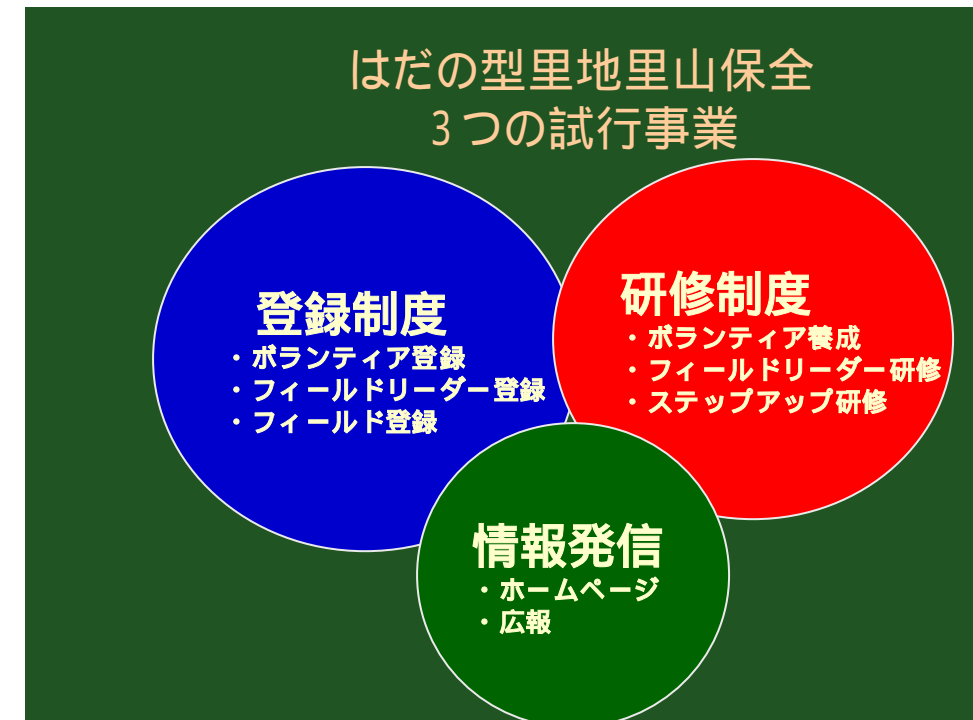
【対象】 初心者、保全活動をやってみたい人（秦野市民、神奈川県民、首都圏住民等）
希望者は、実地活動をふくむボランティア養成研修を受けて、はだの里地里山ボランティアとして登録。活動団体に加入するか、募集のある保全活動に参加するなど、フィールドリーダーの指示のもとで保全作業を行います。

フィールドリーダー登録

【対象】 農林家（地権者）、保全活動熟練者
保全再生活動の中心的存在として、里地里山の保全再生計画の立案や、保全再生活動の実践、指導、保全活動団体の運営にあたります。地権者が自らの土地で他のリーダーやボランティアとともに保全再生活動を行う場合も、フィールドリーダーとします。

フィールド・リスト/登録

秦野地域で、ボランティアや活動団体と共同あるいは、地区・集落ぐるみで里地里山の保全活動を実践している「活動フィールド」をリスト化し、秦野地域の里地里山保全活動の進捗を確認、情報発信します。さらに活動フィールドを広げていくため、農林業者（含む管理組合等）が、所有する里地里山の保全管理を手伝ってほしい、保全活動を行ってほしい、保全研修場所として使用を許可してもよい場合、フィールドを登録し、フィールドの状況や地権者の意見をふまえて、フィールドリーダーとともに保全活動を行ないます。



研修制度

ボランティアやフィールドリーダーが必要な技術や知識を身につけて、はだのの里地里山保全活動を活発にするためのしくみとして、研修制度があります。
また、実地での研修は、そのままはだのの里地里山保全活動ともなり、保全再生された里地里山を増やしていくことにつながります。

ボランティア養成研修

【対象】 初心者、保全活動をやってみたい人（秦野市民、神奈川県民、首都圏住民等）

【ボランティア養成研修プログラム】

林のプログラムは、剪定ハサミ、手ノコ、ナタ、カマなどの基本的な使用方法、安全確認、活動にあたっての心得、自然観察の基本などを体験を通じて学びます。
水辺のプログラムは、水田やビオトープなどの補修、保全活動を通じ、スコップやクワなどの基本的な使用方法、安全確認、活動の異味、観察の基本などを学びます。

フィールドリーダー研修

【対象】 農林家（地権者）、保全活動熟練者

【フィールドリーダー研修プログラム】

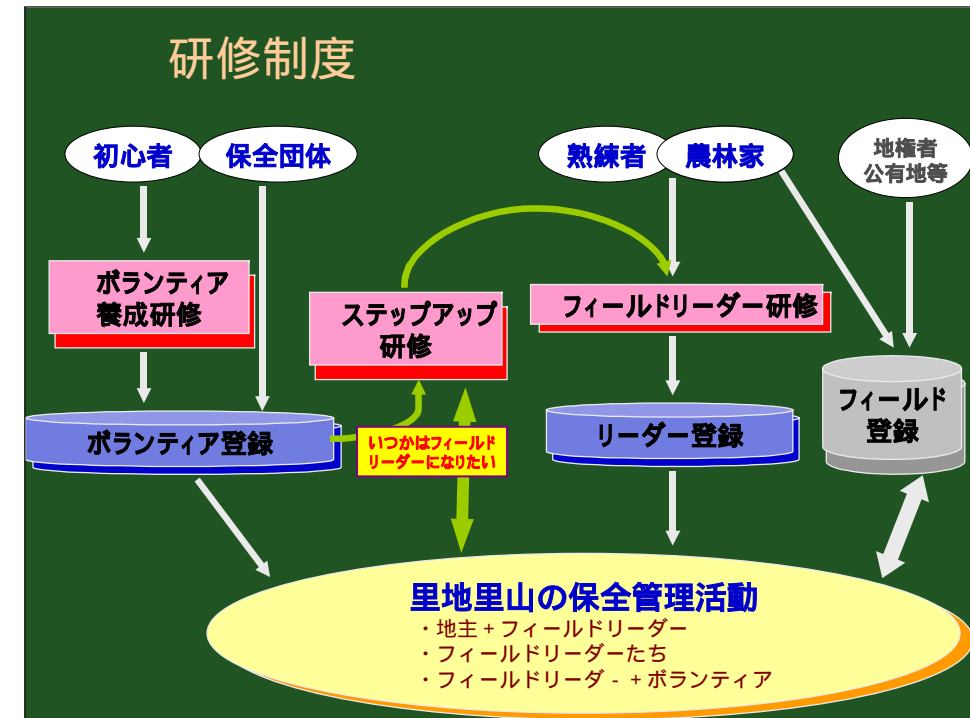
研修1：林の整備方針の作成と技術の向上
プログラム内容...林の管理方法、測樹法、植生調査、機材の利用と維持管理を実践体験します。
研修2：水辺を拠点とする再生技術研修
プログラム内容...湧水を拠点とする生物調査とマップ化、水路のデザイン、林へいたる植生のデザインの作成、生物種と生息環境のデザイン化、周囲のビオトープネットワークとの関連図の作成などを実地体験します。

ステップアップ研修

【対象】 登録ボランティアのうち、保全活動を長期かつより専門的にを行うことを希望する人

【ステップアップ研修プログラム】

秦野市内外の研修等と、秦野の里地里山保全活動をポイント制でカウントします。実践と研修のそれぞれ一定のポイントが貯まったら、熟練者と同様のフィールドリーダー研修が受けられこととします。
研修例...秦野市「環境大学」、里山ふれあいセンター「技術向上研修」、神奈川県「森林づくりボランティア実践活動」、まほろば里山林を育む会等の「定期保全活動」



情報発信

はだの里地里山の魅力を伝え、秦野市民、神奈川県民、首都圏住民をはじめ、多様な主体がその関心にあわせて里地里山を訪れ、様々な活動に参加できるよう促す情報発信のしくみをつくります。

「はだの里地里山」のホームページを立ち上げ、行政、地域、農林家、保全団体の参加で、はだの里地里山保全活動やPRのポータル（玄関）づくりを試行。同時に市の広報等で広く告知します。

【内容案】 秦野の里地里山の情報、活動団体紹介や活動の案内、登録制度・研修制度の紹介と募集、イベント情報やレポート



地域戦略 [全体図]

【上エリア】
水田湿地の環境と生態系の保全再生
- 生き物の里づくり -

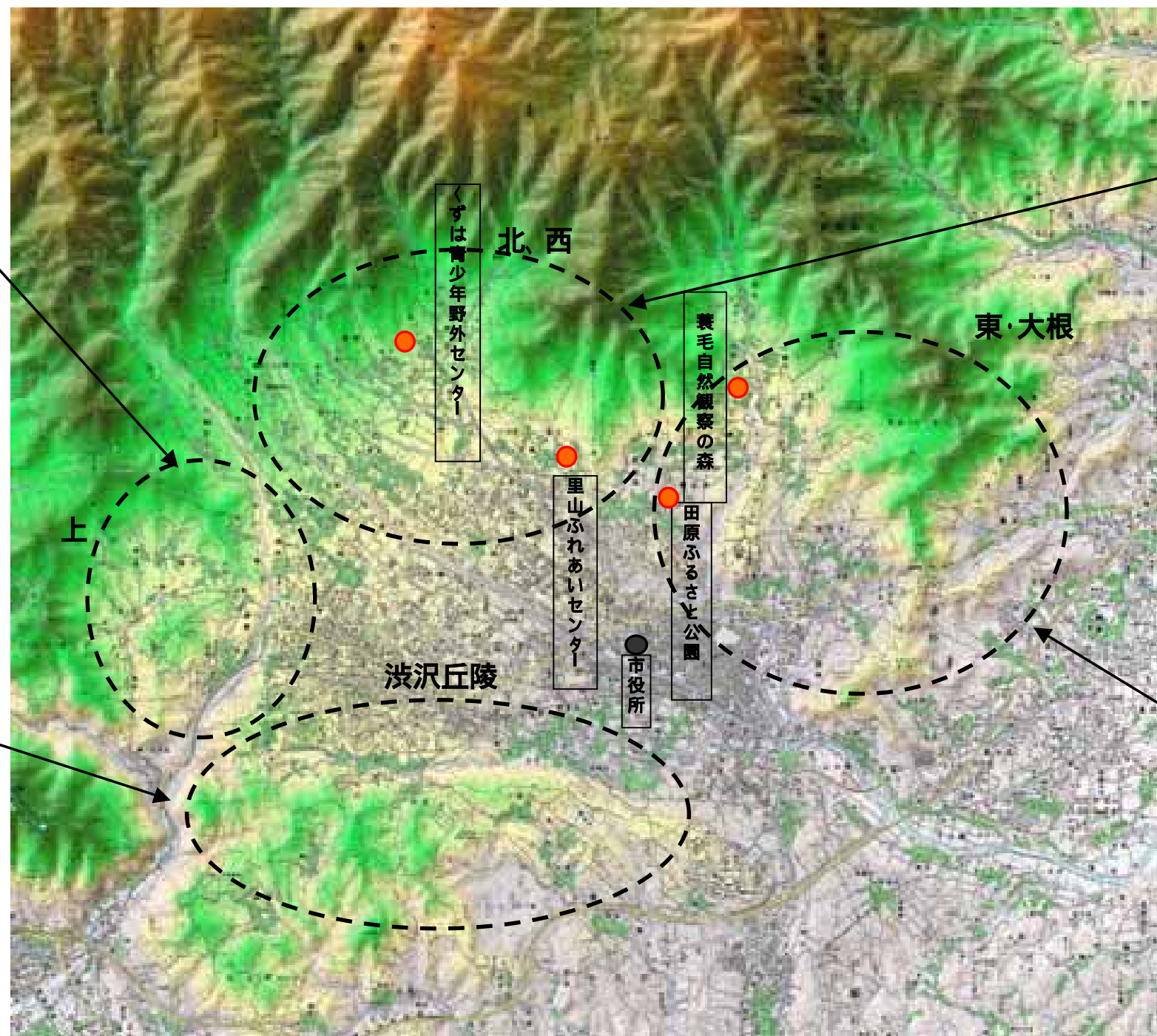
水田・湿地環境の再生
 ・水田を利用したビオトープ化
 ・水路の多自然化
 ・生き物の里づくり
 四十八瀬川周辺の水田活用
 里山・竹林整備と仕組みづくり
 獣害対策としての里山整備

生き物観察による啓発と交流
 都市住民の里地里山管理体験
 ・里地里山保全管理の拠点施設の検討
 農家民宿活用等
 ・里地里山の管理体験の実施

【渋沢丘陵エリア】
多様な主体による二次林整備と交流

二次林の多様な整備モデルづくり
 ・強めの管理からつる伐り程度の管理
 ・竹林の管理、タケノコとり
 ・椎茸栽培、炭焼き
 ・自然観察の実施・モニタリング
 ・活動拠点の検討
 散策道の延長と周辺整備の検討
 ・散策コースの接続に関する検討(湧水群含む)
 ・里山公園の整備
 散策道の案内板、木の名札つけ
 木と遊ぶプログラム
 小学校の里地里山環境学習の推進

多様な主体の参画と協働
 ・地元共有林管理組合と市民団体の連携
 ・小学校等の環境学習受け入れ



【北・西エリア】
里山保全再生拠点
- 研修拠点、ヤマビル・獣害対策 -

ヤマビル・獣害対策としての里山整備
 ・各種調査との連携による対策検討
 ・下刈り、間伐の実施(バッファゾーンを目標として)
 ・ヤマビル駆除、獣対策の試行と検証
 バイオマスの検討
 ・落ち葉の堆肥化と利用
 ・石窯施設の設置(間伐材を燃料とする)
 くずは青少年野外センターの活用
 ・里地里山研修・青少年の野外活動拠点
 里山ふれあいセンターの活用
 水源の保全
 ・水田涵養事業の推進

保全活用研修の実施
 ・二次林整備の技術研修
 ・木の学習、炭焼き、椎茸栽培
 ・リーダー、ボランティア人材育成
 情報発信機能の充実

【東・大根エリア】
農家、集落を軸とする保全再生

里山支援モデル事業による里山づくり
 集落周辺の藪の整備(獣害、荒廃農地対策)
 ・重点箇所の特定、試行的整備と検証
 ・継続管理体制の検討
 養毛自然観察の森の活用

都市住民が関わった荒廃農地の解消
 解消後の農地利用
 ・ふれあい農園、さわやか農園、中高年ホームファーマー等
 ・直売施設の活用、花の里づくり
 観光農園の拡大と活用の検討
 ・木のオーナー制・もぎ取り・堀り取り等
 ・アグリサポート制度の活用
 田原ふるさと公園の活用
 歴史文化施設の活用
 ・実朝公御首塚・中丸古墳

【市全体】
里地里山の保全再生による地域社会の発展 - 登録制度・研修制度・情報発信・水源保全・普及啓発活動・学校教育や生涯学習との連携 -

| | | | |
|---|---|---|--|
| 登録制度 ・ボランティア登録 ・フィールドリーダー登録 ・活動フィールド登録 | 地域内外との情報交流 ・里山ふれあいセンター、田原ふるさと公園、くずは青少年野外センター、養毛観察の森(緑水庵)の活用 ・看板の設置 ・宿泊研修 | 水源の保全 ・良質な水道水源としての里地里山の保全 ・水道局との連携による保全活動の実施 | 学校教育・生涯学習との連携 ・市内学校における体験学習のモデルフィールド設定 ・大学等との連携による保全活動 ・環境学習副読本等の作成 |
| 研修制度 ・ボランティア研修 ・フィールドリーダー研修 ・ステップアップ研修 | バイオマスの検討 ・落ち葉、生ごみ、牛糞、チップとの混合による堆肥づくり | 谷戸の保全 ・谷戸の確認及び位置図の作成 ・「生き物の里」指定の検討 | 市民全体への普及啓発活動の実施 ・「里地里山の日」の設置 ・どぶろく祭り等の既存イベントとの連携 ・市民スケッチコンテスト、撮影会等のイベント実施 |
| 情報発信 ・ホームページ ・広報(広報誌発行等) | はだの版里山林整備指針の策定 | 里山保全管理手法の検討 ・所有者自身による保全管理 ・多様な主体(市民ボランティア・生産森林組合等)が関わった保全管理 ・行政主導による保全管理 | 荒廃農地対策の実施 ・荒廃農地の解消と解消後の活用 |
| 推進体制の構築 | | | |

凡例

里山
 水、里地
 人、情報
 一部でも取り組みを始めているもの
 主に18年度以降

地域戦略 [地区別図 北,西地区、東地区]



地域戦略 [地区別図 渋沢地区、上地区]

